

「半世紀の時を超え、アフガンのコムギが故郷へ帰る！」

～日本の科学技術が絆を結ぶ国際復興支援～

■概要■

木原生物学研究所の創設者、故木原均博士は、小麦の発祥の地を探るため、1955年にカラコルム・ヒンズークシ学術探検隊を指揮し、パキスタン、アフガニスタン、イランの地を探検し、アフガニスタンの地でも、在来の150種近くの小麦とその祖先種を採集しました。

横浜市立大学木原生物学研究所では、それら貴重なコムギ遺伝資源を現在も保存しており、遺伝資源の有効活用とゲノム科学の研究を行っています。平成22年度にJST/JICA地球規模課題対応国際科学技術協力事業（SATREPS）に採択された研究課題「持続的食糧生産に向けたコムギ育種素材システム構築」では、木原生物学研究所の保有するコムギの遺伝資源を活用し、厳しい自然条件を持ち、内戦後復興途中にあるアフガニスタンの持続的食糧生産を目指す育種素材・育種技術の開発や自国のコムギ品種改良を支える若手研究者の育成等をアフガニスタンとの共同研究により行うこととし、プロジェクトを進めています。

この度、平成23年11月3日、木原生物学研究所で保存し研究を続けてきたアフガニスタンの在来小麦の約300系統の種を、JICAアフガニスタン国立農業試験場再建計画（NARPプロジェクト）で整備されたアフガニスタン・カブールの研究圃場（アフガン農業灌漑牧畜省研究センター、MAIL）に播種しアフガンの持続的小麦生産に向けても現地研究が始まりました。半世紀の時を超え、遂にアフガニスタンの地へと里帰りしたコムギが、本プロジェクトの中で今後のアフガニスタンの食糧生産を支えるコムギ育種素材となるよう、取り組みが進められていきます。

■ポイント■

- ・世界的にも、歴史的にも貴重なコムギ遺伝資源が半世紀ぶりにアフガニスタンの地へ里帰り
- ・日本とアフガニスタンとの共同研究による国際復興支援プロジェクトがスタート

木原のコムギがようやくアフガニスタンへ届きました！



現地研究員に指導する JICA 事務所アドバイザーの Osmanzai 氏



里帰りしたコムギ達

